





RI 第2610地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2009-2010 年度 No. 1 4

〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 FA X 0763-53-1334、

 $\underline{inashorc@athena.ocn.ne.jp}$



「ロータリーの未来は あなたの手中に」

(ジョン・ケニー会長)

2009-2010 年度 会長 斉藤 彰 、幹事 坂井 彦就

例 会 記 録

第1496回例会

平成21年10月28日(水) 井波文化センター

- 1. 点鐘 三谷副会長
- 2. ソング 我等の生業
- 3. ゲスト 米山奨学生 キンコウランさん
- 4. ビジター 高岡万葉RC 泉田俊英様
- 5. 表彰 「在籍30年、出席100%」 地区ガバナー 表彰 横山豊介会員



- 6. 会長の時間 以前に当クラブが米山奨学生を受け入れ、私が世話をしたことがあります。彼は学校を卒業後不二越に勤務していました。しばらく交流を続けていましたが、その後、他の企業へ変わっているようです。ところで、昨日、関門海峡で大型船同士の衝突事故がありました。何か思いがけないこと、キッカケ、原因があったことでしょう。私たちも日常生活の中で事故、怪我のないよう気をつけましょう。
- 7. 幹事報告

- 11月4日 家族旅行 貝掛温泉8:00 井波交通広場発8:10 川那辺宅前発
- ・ 11月8日 9:50 マーシ園集合 いい歯のキャンペーン活動
- 標語募集について
- 8. 委員会報告
 - 山本会員 ・11月8日午前10時~ 「いい歯の日 キャンペーン」を行います。会長挨拶、健康講話、 歯磨き指導、むし歯予防全国大会 IN 富山参加者記 念品の受領等を行います。
 - ・ 11月14日13:30~富山県歯科医師会館 当クラブが協賛団体として参加します。是非ご 参加ください。
 - 荒木会員 地区情報委員会に出席しました。全会員から標語を募集して、優秀作品をステッカーに印刷し、 リアウインドーに貼ってロータリーの活動をアピールすることになりました。奮って応募してください。11月27日までガバナー事務所宛へ。
- 9. 出席委員会 22名中11名出席 57.89% (調整後)
- 10. ===BOX (河合SAA:本日6名 9,000円)
- 11. 卓話「モンゴル民族について」米山奨学生 金紅蘭さん



中国の内モンゴルから来ました。富山大学理学部生物圏 環境科学大学院2年生です。本日は、モンゴル民族の生 活習慣、風習、祭り、産物等について紹介します。

- ・モンゴル民族・・・中国の北から北東地方の大草原を拠点として生活している遊牧民族です。モンゴル高原を中心に内陸ユーラシアにも居住する民族でモンゴル語を母語とします。
- ・人口・・・モンゴル国に約200万人、内モンゴル自治区(中国)に400万人、ブリヤート共和国(ロシア)に20万人です。内モンゴル自治区では都市や農村に居住する人も多くモンゴル語を話せなくなった人も少なくありません。
- ・文化・・・ブフ (モンゴル相撲)、競馬,弓射は古い伝統競技です。モンゴル各地のオボー祭りやナーダムを主な伝承母体として、モンゴル人のアイデンティテイの確認および強化に重要な役割を果たしています。
- ・食べ物・・・牛と羊の肉、ヨーグルトで作った豆腐、"うるも"という牛乳の表面の薄い皮とバター、炒り米、野菜が主です。飲み物は"乃茶"というミルク入りお茶及び団茶です。
- ・家屋・・・モンゴルパオというテント型移動式家屋です。 木の骨組みにフェルトで覆い円錐形で丸屋根をしています。パオは、組み立てたり折りたたむことが容易で引越しなどの運搬にも便利です。冬は暖かく夏は涼しいという特徴があります。
- ・馬・・・モンゴル人の一番の友達です。日本人の車と同じくらい大切な交通手段です。昔から馬には特別な感情を持っています。慣れると馬に乗って矢を射ることができます。盛んなスポーツに、モンゴル相撲、競馬、乗馬して矢を射る競技があり、馬と親密な関係にあります。

- ・宗教・・・チベット仏教の流派であるラマ教を信仰します。
- ・祭り・・・'ナダム'という特別な祭りが7月から8月 の間行われます。競馬や射的、歌、ダンス等。きれいな 服を着て遠方からでも駆けつけ、民族が一緒になって祭 りを楽しみます。
- ・産物・・・なんといっても広々とした大草原。牛、羊、 ラクダなどの家畜。金、銀、クリスタルなど61種類の 鉱物資源。鹿茸、射香などの漢方薬の材料など・・・。 是非、故郷モンゴルにいらしてください。

【編集後記】「財団法人 ロータリー米山記念奨学会」は、故米山梅吉氏の偉業を記念して、国際理解と親善に寄与することを目的に設立されたものです。年間奨学生およそ800人、事業費14.4億円。これまでに1万5130人受け入れ。国内では最大の奨学事業であるそうです。モンゴルにおいても草原が次第に砂漠化したり黄砂による被害が拡大しているそうです。環境問題について、日本でしっかり勉学されることを期待します。

(荒木 記)